

総 評

数学がたいへん難しく、国語と英語も難しめで、5教科合計の平均点も低くなりました。

道コンなどの模擬試験は、実際の入試と同様、広い範囲から網羅的に出題される特徴があります。模試でのミスは、以前に学習した内容のうちどれが定着していないかを知る手がかりになります。間違えた問いの一つ一つについて、「なぜ間違えたのか」を考え、解き直しをすることで、知識が整理され、確実なものになります。

入試などで実際に問題を解く場面において、知識をどのように活用するのか、という、「活用する力」をつけるには、実は「慣れ」は大きな要素です。入試に向けて單元ごとに基礎的な知識を整理する勉強を日々行いながら、実戦的な問題にも取り組むことで、使える「解法」や「考え方」のパターンを増やしていきましょう。

国 語

やや難しい出題となりました。

㊦は、漢字の書き問題「仲裁」の得点率が低くなりました。㊦は、問二と問三の得点率が低くなりました。どちらも、古文の部分的な内容を問うものでした。古文では主語が省略されることが多いため、誰が何をしたのかを意識しながら、文章の内容を丁寧に読み取るようにしましょう。㊦は、問四①の得点率がやや低くなりました。設問と本文では異なる表現が使われていることもあるため、それぞれの言葉の意味を考えながら、対応する部分を探すことが大切です。㊦は、問一の得点率がやや低くなりました。抜き出す字数が多かったためか、抜き出す範囲が少しだけずれている解答が多くありました。㊦は、問一の得点率が低くなりました。動詞の活用形について復習しておきましょう。

数 学

比較的オーソドックスな出題でしたが、㊦、㊦の得点率が予想を下回り、たいへん難しい出題となりました。

㊦は問1の確率の得点率が低かったです。確率は入試でも毎年1題は出題される重要単元です。場合の数の求め方を復習しておきましょう。㊦の問2は指定された座標の点を通るグラフの式を求める問題で、必修問題です。座標の位置の指定の方法には様々なパターンがあります。よく復習しておきましょう。㊦は問1の作図の問題に苦戦したようです。入試でも言葉で説明する問題は増加傾向にあります。少しずつチャレンジし、苦手を克服しましょう。㊦は図形上を動く点と関数の問題でした。点の動く向きによって変域を区切り、それぞれの区間で各線分の長さがどのように変化するかをとらえましょう。式がわからなくてもグラフはかけます。

社 会

標準的な難度の出題でした。

地理分野は、㊦問1(2)の記述問題がよくできていました。㊦問1は、「北方領土」は書けたけれどYの島の名(色丹島)を間違えたという人が多かったのではないのでしょうか。「丹」の漢字を間違えた人も多くいました。北方領土関連の問題は入試の定番ですので、少なくとも島名は確実に書けるようにしておきましょう。歴史分野では、㊦問2(1)、㊦問6の年代並べかえ問題の得点率が低くなりました。並べかえ問題は入試で必須ですので、苦手な人は教科書の年表等で歴史の流れを確認しましょう。公民分野は、㊦問2(2)の「インフォームド・コンセント」を正しく書いていない答案が目立ちました。教科書で太字になっている語句は、何となくではなく、正しく書けるようにしておきましょう。

理 科

標準～やや難しい出題でした。

㊦は基本的な知識を問う問題が中心で、全体によくできていました。間違えたところは復習しましょう。㊦は、問1以外は得点率が50%を下回りました。このようなモデル実験は見かけたことがなかったかもしれませんが、文章をしっかりと読めば十分解答できたはずです。㊦は電流に関する問題で、全体に苦戦した人が多かったようです。特に問1(2)と問3は得点率が低くなりました。計算問題の演習をしっかり行いましょう。㊦は、問4(2)が難しかったようです。問われることの多い問題ですので、考え方などを確認しましょう。㊦は、問1で指定語句を正しく書いていない答案が目立ちました。問題文をしっかりと読み、求められることをよく確認する習慣をつけましょう。

英 語

やや難しい出題でした。

英問英答には、①本文中の語句や表現を使って答える問題と、②自分の考えを英語で自由に表現する問題があります。①は指示にしたがって答え、時制や複数形などの細かい文法ミスに注意しましょう。②はスペルミスや語句の使い方に気をつけながら、自分の考えを正確な英語で書きましょう。

㊦のリスニングは、どの問題もあらかじめ選択肢に目を通し、何が問われるかを予想してから音声を聞きましょう。そのうえで、「誰が」「いつ」「何をするか」「何をしたか」などの情報を正確に聞き取りましょう。

㊦の英作文は全体的に難しかったようです。これまでに学習した文法の中で苦手なものがある人は、教科書の基本文を英訳したり和訳したりして練習しましょう。